

授業科目 地域作業療法学 II

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	作業
永井 洋一、能村 友紀、貝淵 正人		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	○	
【概要・一般目標：GI0】 地域リハビリテーションの理念を理解し、地域作業療法の役割、多職種協業のあり方について習得する					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らしながら作業療法の対象となる人や障害に関心を持ち、真摯かつ積極的な態度で学ぶことができる 2. 地域リハビリテーションの理念、役割、システムの概要を述べることができる 3. 地域において連携する他職種の業務と役割が説明できる 4. 地域作業療法に関連する諸制度と作業療法との関わりについて説明できる 5. 地域作業療法が実施される施設の種類の役割を説明できる 6. 各施設における作業療法士の業務内容と役割について説明できる 7. 在宅高齢障害者に対する援助方法について考えを述べるができる 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	地域作業療法の理念、役割（1）			1～3	講義
2	地域作業療法の理念、役割（2）			1～3	講義
3	地域作業療法に関連する諸制度（社会保障制度）			1,4,5	講義
4	地域作業療法に関連する諸制度（介護保険制度）			1,4,5	講義
5	地域作業療法に関連する諸制度（介護保険制度）			1,4,5	講義
6	地域作業療法に関連する諸制度（介護保険制度）			1,4,5	講義
7	地域作業療法に関連する諸制度（介護保険制度）			1,4,5	講義
8	地域作業療法の実際 入所サービス（1）			1,5,6	講義
9	地域作業療法の実際 入所サービス（2）			1,5,6	講義
10	地域作業療法の実際 通所サービス（1）			1,5～7	講義
11	地域作業療法の実際 通所サービス（2）			1,5～7	講義
12	地域作業療法の実際 訪問サービス（1）			1,5～7	講義
13	地域作業療法の実際 訪問サービス（2）			1,5～7	講義
14	地域作業療法の実際 行政サービス			1,2,5～7	講義
15	福祉用具講習			1,3,4,6,7	講義・演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		地域作業療法学第2版	小川恵子編	医学書院	2012・3,800円＋税
参考書					
その他の資料		配布資料			
【評価方法】 知識理解の確認として小テストを実施する。 また、出席やレポート作成、レポート提出期日厳守、授業態度を重んじる。出席、授業態度、レポート、小テスト、定期試験の結果から総合的に判断する。			【履修上の留意点】 1. 地域ケア体系は激変期にある。情報をインターネット・新聞・TVから常に収集すること。 2. 保健・医療・福祉は在宅ケアへと大きくシフトしている。地域における作業療法指導・援助の実態を見学することを勧める。		